



なじらね.jp

The News Letter of The Supporting Organization of JOCV NIIGATA

なじらね

秋

どっとびえーびー

平成 21 (2009) 年 10 月 31 日 (土) 発行 - 第 2 号 -



[発行人] 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」 会長 平山征夫 / 事務局長 横山容司郎
The Supporting Organization of JOCV NIIGATA

[事務局] 〒950-2063 新潟県新潟市西区寺尾台3-6-5 有徳ビル3F (株)アルファブライト 内
Tel. 025-268-0200, Fax. 025-260-1226, E-mail n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
URL <http://www.n-sojocv-najirane.com> (公式HP新規開設 2009年10月より)

[編集人] 広報文化専門委員会 山田 規央

- NAJIRANE Headline -

- 【巻頭言】 “なじらね.jp”の第2号の発行に寄せて P-1
- 【巻】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第1回総会を開催しました P-2
- 【式】 派遣中隊員から新潟にSOS!! そしてその後 P-2,3
- 【参】 本県出身のJICAボランティア(青年海外協力隊&シニア海外ボランティア)
平成20年度4次隊(H20-4)、平成21年度1次隊(H21-1)が任国へ赴任! P-4
- 【四】 派遣中隊員よりメッセージ P-5
- 【五】 現在、未来の青年海外協力隊員、それぞれの心境 ～フィジー～ P-6
- 【六】 新潟市議会でJICAボランティア関連の討議がされました P-7
- ★JICAボランティア用語、お知らせ P-8

Let's Access Our New Official Homepage! ★ <http://www.n-sojocv-najirane.com>

【巻頭言】“なじらね.jp”第2号の発行に寄せて ～ 日本の未来を切り開くのは? ～



にいがた青年海外協力隊を育てる会
副会長 渡辺 敏彦
(学校法人 新潟総合学園 副理事長)

今、日本は大変内向きになっているように感じます。そして右肩上がりの発展する社会から、既に右肩下がりの社会に移行しつつあります。少子高齢化の進行への対応が出来ないことが、大きな原因の一つであると思います。

また、昨年9月からの世界的規模の金融危機による大変な経済不況や雇用不安ももちろんのこと、政治も混乱し、世相も乱れております。

このような閉塞感のある現在の日本にとって、大事な事は何でしょうか? それは、「人材育成」だと思います。国際感覚を持った、若くたくましい人材を育成することが、明るい日本の未来を切り開くための確かなベースになると思います。その意味で、青年海外協力隊を育てる会の役割は大変大きく、また重要であると思っております。

新潟は、「にいがた青年海外協力隊を育てる会」の全国での設立順位は遅いですが、これからその分も含めて、海外派遣事業の応募の推進と、帰国隊員の地域での積極的な受入支援等、育てる会のやるべきことは沢山あります。会員の皆様のご協力により、活性化順位を全国有数に出来ればと願っております。

【巻】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第1回総会を開催！

去る5月17日(日)に、昨年11月30日に発足して以来初となる第1回総会が、発会式と同じ新潟会館で開催されました。

79人の会員の内、出席者が32人、顧問、会長、副会長、理事、監事の役員を始め多数の出席を頂き、厳粛に総会を開催する事が出来ました。議事録は過日、会員の皆様にお届けしてありますのでここではご報告申し上げますが、総会終了後に行われた「現職参加について」の講演で(社)協力隊を育てる会より足立房夫会長と菊池威臣事業・支援課課長を招聘し、帰国後の就職の現状と各県の現職参加制度への取り組み状況についてご説明をして頂きました。この講演内容を踏まえ、今後の会の取り組みとして、この現職参加制度の周知及び協力隊参加支援のため、県内全市町村へ協力隊派遣条例の制定を依頼する文書を発送することになりました。

その後、実際に6月に会長名で発送してあります。これからは各市町村に出向きフォローしていかなければならないと思います。会員の皆様にご協力をお願いすることになるとと思いますが何卒宜しくお願い申し上げます。最後に、今後も「にいがた青年海外協力隊を育てる会」の活動にご理解とご協力をお願いし、ご報告とさせていただきます。

(文：横山容司郎／写真：山田規央)



平山征夫会長よりご挨拶



(社)協力隊を育てる会 足立房夫会長よりご挨拶



同 菊池威臣事業・支援課課長よりご講演



JOCV清野真輝OVより活動報告



多くの関係者が参加されました



SV平野正OVより活動報告

【弐】 派遣中隊員から新潟にSOS！そしてその後、、、

(1)スリランカから子どもたちのための習字用具のSOS！

昨年12月からスリランカで活動中のJOCV田村美由紀さん(H20-3／青少年活動)から、当会にSOSがありました。



田村さんの活動の様子



習字道具(イメージ)

現在私はスリランカのラージャンガナヤという村で青少年活動隊員として活動しています。青少年を対象に4つの日本語クラスを行っており、合計50名ほどの青少年が日本語を勉強しています。子供たちは新しい言語を勉強することがとても楽しいようで、毎週楽しみにクラスに通ってくれています。スリランカの文字と日本語の文字は大きく異なり、子供たちにとって日本語を書くことは難しいようですが、楽しく学んでいるようです。日本文化にも興味があるようで、書道というスリランカにはないものを紹介することで子供たちがより日本文化に興味を示し、また覚えてた文字を練習するいい機会になるのではないかと思います。JOCV田村美由紀

⇒現在中古の習字用具が集まりつつあり、近日中に、田村さんから要請のあった15セットを送る予定です。

※国旗・地図の引用：外務省HP
(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/index.html>)

(2)全国から寄せて頂いた絵本をベトナムの視聴覚障がいの子どもたちに送りました！

本紙「なじらね.jp 創刊号」でご紹介したとおり、昨年7月よりベトナムで活動中の青年海外協力隊員・奥平百合さん(H20-1／美術指導)が視聴覚障がいをもつ子どもたちのために図書室をつくらうとがんばっています。奥平さんのSOSに対し、当会でも奥平さんの活動に協力するため、絵本・図鑑等のご寄付を呼びかけさせていただきました。また、(社)協力隊を育てる会のご厚意により、協力隊を育てる会ニュースのトップ面にご紹介いただいたこともあって、たくさんの絵本・図鑑が県内はもとより全国各地から送られてきました。遠くは札幌や愛媛から届いたり、また、ある方はお一人で100冊以上も送っていただいたり、さらに、高校・大学・病院・自治会・会社・塾などでまとめてご提供いただいたりしました。その数はなんと当初の目標(500冊程度)を大きく上回る約1,500冊に上り、7団体、15人の個人の方々からの善意を賜りました。

去る6月28日に、集まった本をダンボールに詰めてみるとその数なんと17箱です。そして、7月2日に新潟から横浜の港までトラック便が出発していきました。約1ヶ月後、ベトナムのホーチミンの港に着いたものの、引き取り手続きが予想外に難航し、奥平さんたちの元にはこのたび10月12日にやっと到着致しました。(尚、集まった本の内50冊分については、JICAの「世界の笑顔のために」プロジェクトとして、この度の荷に先行して既に奥平さんたちに送られております。)皆様、本当にご協力ありがとうございました。

また、9月22日には当会の横山容司郎事務局長、新潟県青年海外協力協会(JOCA新潟)の藤田純子会長、協力隊OV五十嵐真由美さんの3名が現地を訪問し、奥平さんや学校の子どもたち、職員らと親交を深めて来ました。



事務局に集まった本の数々を



箱に詰めて



新潟発ベトナム行き！

※国旗・地図の引用：外務省HP (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/index.html>)

(文・写真：渡辺松一)



左) 奥平さんとCP、子どもら
(写真：横山)

中央) なじらね隊
(写真：五十嵐)

右) KABUTO (写真：奥平)

【奥平さんからのお礼のEメール】(H21.10.14 当会事務局受信)

新潟の皆様！これが本当の大団円！本当に着きました！

10/12月曜日の午後のことです。メールしに行けず、ご連絡遅れましたが、やっとやっと、本当のご報告ができます。

サイゴンの港についてから、なんと長かったこと。。この間、皆様には気をもませてしまいました。本当に、すみません。

でも、もう手元にあります。いまは本棚を動かしたり、種類に別に整理したりと大きな生徒が手伝って作業が進んでいます。

本を前にした子ども達は本当に饒舌になります。6歳くらいのまだ手話の語彙の少ない子が、色々話したくて身振り手振りで頑張っているのを大きな生徒が感心して見ているという場面がありました。ここに、沢山の意味と可能性があるなあ、と感慨にふけてしまいました。「表現したい気持ち」を出させることができる媒体として、本当に図書は役に立つと思います。とくに聾の子供たちにとって。

取り急ぎ、今の興奮をお届けして、お礼に代えさせてください。本当に、ここまで支えて下さりありがとうございました。皆様のご協力ご助力に感謝いたします。

では、季節の変わり目、どうぞご自愛くださいませ。

JOCV H20-1 奥平百合(ベトナム／美術)



本を手取る子どもらの笑顔



新潟から学校に無事(?)到着

【参】 本県出身のJICAボランティア（青年海外協力隊&シニア海外ボランティア） 平成20年度4次隊(H20-4)、平成21年度1次隊(H21-1)が任国へ赴任！

本県出身の青年海外協力隊(JOCV)・シニア海外ボランティア(SV)、平成20年度4次隊(H20-4)の新隊員9名(JOCV 7名+SV 2名)が平成21年3月末に、平成21年度1次隊(H21-1)の新隊員6名(JOCVのみ)が平成21年6月末にそれぞれの任国へと出発しました。いずれも派遣前訓練終了後に帰郷し、新潟県庁への表敬訪問をした日の夕刻より、当会と新潟県青年海外協力協会(JOCA新潟)との共催で派遣前壮行会を行ない、新隊員の皆さんに激励をさせていただきました。当会としては、それぞれの任国で活躍する本県出身隊員の活動を地域ぐるみでサポートしていけるように、取り組んでいきたいと思っています。新隊員それぞれの紹介と派遣にあたっての抱負は次の通りです。

氏名(H20-4)	任国	職種
①徳永春佳さん	モザンビーク共和国	臨床検査技師
②佐野和代さん	ボリビア多民族国	助産師
③上村裕之さん	ニジェール共和国	感染症対策
④桒山明さん	ボリビア多民族国	村落開発普及員
⑤高井亜紀さん	ウガンダ共和国	看護師
⑥星野泉さん	ウガンダ共和国	感染症対策
⑦丸山孝仁さん	ニジェール共和国	村落開発普及員
⑧佐久間雅義さん	タイ王国	製紙・パルプ
⑨笠原浩子さん	マーシャル諸島共和国	算数・数学技術向上

①応援してくださった方々に本当に感謝します。
元気に帰国したいと思います。

④2年間楽しみながら頑張ってきます。

①どんな出会いになるか何が見えるか2年後何を持って帰れるか、それが楽しみです。

②日本って日本人ってすてきなと現地の方々に思っていたできるよう努力したいと思います。

③健康を大切にしながらがんばりたいと思います。



⑥健康に留意して楽しんでいます。

⑤ウガンダの子供たちや女性たちの力になれるよう現地のスタッフと一緒に考えながら活動していきたいです。

②スペイン語への不安はありますが、たくさんのことを吸収して学び多い2年間にしていきたいと思っています。

H21.3.18

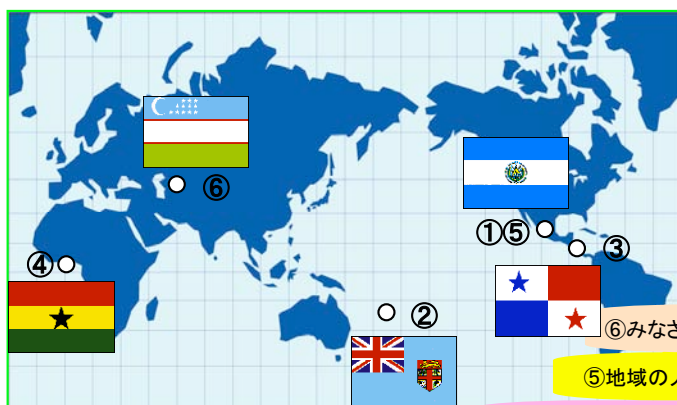
(写真：五十嵐 真由美)

氏名(H21-1)	任国	職種
①豊木麻弓さん	エルサルバドル共和国	理学療法士
②高橋英明さん	フィジー諸島共和国	理学療法士
③真貝裕一さん	パナマ共和国	村落開発普及員
④斉藤華菜子さん	ガーナ共和国	村落開発普及員
⑤坂田香奈恵さん	エルサルバドル共和国	作業療法士
⑥清水茂さん	ウズベキスタン共和国	村落開発普及員

①現地のニーズを把握できるようコミュニケーションをうまく取っていききたい。

②人手不足なのでマンパワー的にはなと思うが、改善点があれば提案していきたい。

③自分なりに現地に合った提案をしていきたい。



⑥みなさんが既に持っているノウハウをうまく使い活動していきたい。

⑤地域の人がお互いに助け合えるよう、相手を尊重していきたい。

④一人でも多くの人が選択の自由を得られるように活動していきたい。

H21.6.17

(写真：山本 健一郎/JICA地球ひろば)

※国旗&地図の引用：世界地図・世界の国旗
(<http://www.abysse.co.jp/world/>)

【四】 派遣中隊員からのメッセージ

新潟県出身で、アフリカのモザンビーク共和国で活動中の青年海外協力隊員・徳永春佳さん、バヌアツ共和国で活動中の青年海外協力隊員・小野澤由華さんからのメッセージをご紹介します。

徳永春佳さん（平成20年度4次隊／任国：モザンビーク共和国／職種：臨床検査技師）

お久しぶりです。モザンビーク、臨床検査技師のトクナガです。

その後は、思いのほか元気にやっています。

語学はあまり上達していない気がしますが、活動は語学がまあまあでも、それなりにできるということもわかって来たので、楽しく毎日過ごせて居ます。

専門学校のようなところで働いているので、朝7:30から隣の病院に実習の引率、10:00からは血液学の学内実習を担当しています。生徒の学習意欲はなかなかのもので、教科書や備品、機械の不足、劣悪な環境とはいえ、中でも懸命にやっている印象を受けます。

しかし、モノ不足や流通の悪さなどが悪影響を及ぼしていることもしばしば感じられます。

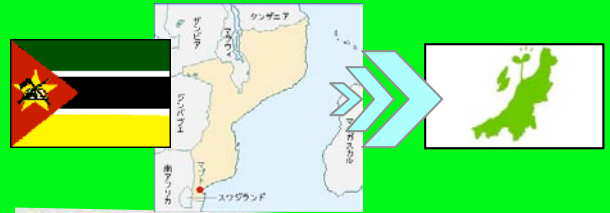
まあ、アフリカはなかなか生きていくのにも大変ですね。日常の何でもないことに多くの時間がかかり、結構忙しい毎日です。

担当しているクラスの生徒と撮った写真を添付します。

今のところ毎日が楽しくて、こんなのが2年も続くなんてと思うと、何だか申し訳ないくらいですね。

徳永春佳（H20-4 臨床検査技師）

※H21.8.28 山田規央（広報文化専門委員会）Eメールで受信



（文・写真：徳永春佳）

小野澤由華さん（平成20年度1次隊／任国：バヌアツ共和国／職種：小学校教諭）



←子どもたちがボトルキーボードで演奏！

新潟のみなさん、olsem wanem(元気ですか?)

バヌアツは南半球に位置するため、今は冬を迎えています。日中は暑くなる一方、夜はかなり冷え込むため靴下をはき、場合によってはコートを着こんで寝ています。南国でコートを着て寝るなんて全く想像していませんでした。

さて、私は昨年6月に派遣され、もう早いもので1年以上が経過しました。ようやく現地の人たちの生活や行動パターンなどが見え始め一年前、半年前と比べると随分と心に余裕をもって活動ができるようになったと思います。私自身どうしたら子どもを惹きつける魅力ある授業ができるのか日々模索しています。

先日はニューカレドニアからヌメアの学校の先生方と子どもたちが文化交流会で配属先を訪れ、私たちは歌やダンスでおもてなしました。子どもたちは挨拶の歌をバヌアツの公用語であるビスラマ語、英語、フランス語で歌い、最後にボトルキーボード（空きビンに水をいれ音色を作って叩く手作り楽器）と打楽器で演奏したところ配属先とヌメアの先生方も子どもたちも大変喜んでくださり、音楽の表現の仕方の方の一つを見せることができた次第です。

もう残り1年を切ってしまったので、最低限これだけは教えたいというものに焦点を絞りながら、元気に残りの活動をがんばっていきたいと思います！

それではまた。Lukim yu（さようなら）

小野澤由華（H20-1 小学校教諭）

※H21.9.3 山田規央（広報文化専門委員会）Eメールで受信

（文・写真：小野澤由華）

※国旗、地図の引用：外務省HP（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vanuatu/index.html>）

【五】 現在、未来の青年海外協力隊員、それぞれの心境 ～ フィジー ～

今年の春募集で合格し次年度にフィジーに派遣予定の谷元気さん(H22-1)、今年の6月にフィジーに赴任した高橋英明さん(H21-1)、偶然にも同じ任国で活動することになる2人の新潟県出身者の現在の心境を紹介します。

H21.9.15 寄稿

「今を大切に、何を大切に」

合格通知を手にしてから1ヶ月が経ち、今の心境を簡単に綴ってみたい。

ふり返ってみると、応募から合格に至るまで職場の上司や家族など多くの方々の理解と協力があった事が進んできたんだなあと感じています。(両親は未だ不安なようだが…)だから周囲への感謝をしつつ、任国に赴くことができるよう日々の過ごし方を大切にしたいと考えています。

もちろん不安や期待はないわけではありませんが、それ以上に、今は自分の身の回りに対してより誠実であろうと心懸けています。そういった意味では、けっこう冷静に受け止めているんだなあと感じています。その冷静な中で、不安といえば語学です。研修の前に少しでも、語学を高めておきたいと思いつつも日々の仕事を言い訳にしていまい、今ひとつ本気にならない自分にやるせなさを感じています。その一方では、任地で繰り広げられるであろう様々な交流を楽観的に思い描いているようです。

ともあれ、今は「行ってから」のことをあれこれ考えるより「行く前」の時間や周囲の人との関係をこれまで以上に大切にしていこうとしています。そういった意味では、これまでの自分の生き方や物事の見方・考え方を落ち着いて整理できそうな気がしています。

このような心境の中、無事に派遣となるよう健康管理には十分注意していかなくっちゃとこれだけは心を引き締めて過ごしています。

平成22年度1次隊 フィジー諸島共和国/小学校教諭 谷 元気

(※来年6月末派遣予定)

(大好きなインドネシアを旅行した時の夕日)

New JOCV @ Fiji
from Niigata



①面積:1万8,270km²(四国とほぼ同じ大きさ) ②人口:827,900人(2007年、政府人口調査) ③首都:スバ④民族:フィジー系(57%)、インド系(38%)、その他(5%) (2007年、政府人口調査) ⑤言語(英語(公用語)の他、フィジー語、ヒンディー語を使用) ⑥宗教:フィジー系はほぼ100%キリスト教、インド系はヒンズー教、回教。全人口に占める割合はキリスト教52.9%、ヒンズー教38.2%、回教7.8%



「フィジーに赴任して」

H21.9.9 寄稿

首都スバの様子(フィジーは寒い!?危ない!?)首都のスバを一言でいえば、「寒い!!」が赴任しての第一印象でした。フィジーと言えば南国の島国のイメージですが、これが正直な感想でした。フィジーは330の島国からなり総国土面積は四国とほぼ同じ大きさです。自分がいる島がフィジーで最も大きな島ですが、自分がいる首都は島の東側、そしてリゾート地として一般的に知られているのは島の西側です。東側は雨が多く一日に一度程度は雨が降ります。空もどんよりしていることが多いです。しかし、西側は雲ひとつない快晴で逆に水不足で水の出る時間が制限される状況です。そして、南半球はちょうど冬にあたるため、ここでは朝夕は長袖が必要なほどです。

また、日本ではそれほど報道されていませんが2006年にクーデターが起こり現在は軍事政権下です。イギリス植民地時代に連れてこられたインド人と元々住んでいるフィジー人の間の人種的な問題がまだ残っているのが現状です。そのため対外情勢もあまりよくありませんが、それに便乗してかなり中国資本が入ってきています。しかしながら、日常生活では全く軍事政権下という感じは全くありません。人々はごく普通に生活をしています。(もちろん日本みたいに安全ではありませんが...)そして道は古い日本車だらけです。軍隊などには全く出会いません。というか、一度も見たことないです...こんな感じの町で毎日を過ごしています。では、また!

平成21年度1次隊 フィジー諸島共和国/理学療法士 高橋 英明

(ホームステイ先の島から眺める夕日)

※国旗、プロフィールの引用:外務省HP (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/fiji/index.html>)

JOCV-ing @ Fiji
from Niigata

【六】 新潟市議会においてJICAボランティア関連の討議がされました

新潟市民の方におかれましては、8月9日(日)に朝刊に一緒に入っていた「にいがた市議会だより第46号」内での記事に目を引かれた方もおられると思います。当会の設立発起人でもある、新潟市議会議員の佐々木薫さん(新潟クラブ)による、6月定例会における一般質問と市側の答弁の内容を新潟市民の皆様以外にもご紹介します。



問 青年海外協力隊は純然たる国際貢献であり、若者の心血注ぐ情熱と日本を背負った志である。戦後の償いとか罪滅ぼしの一環とは全く違う。協力隊経験者は国際関係を理解、体験しており、国際化に対応する即戦力でも有能な人材の確保のためにも、隊経験を職員採用時の優遇措置としてはどうか。

答 これまでも国際貢献やボランティア活動などで培われたコミュニケーション力などを選考において重視しており、要件の一つとすることは調査、研究を進める。

問 環境対策としてLEDは費用との兼ね合いはあるものの、積極的に導入していくべき先端技術である。現状認識および将来性や導入をいかに考えているか。

答 広く普及が期待されることから、初期投資費用が高いことを考慮しても、市施設への率先的な導入を進め、検証する必要がある。

佐々木 薫

青年海外協力隊経験者の採用と
発光ダイオード(LED)の導入
(新潟クラブ)

以下、「新潟市議会 会議録検索(<http://www.06.gijiroku.com/niigata/>)」より実録を抜粋
(閲覧可能⇒上記HPより「本会議」欄「定例会」内、「平成21年」をクリック⇒平成21年6月定例会本会議「06月25日-03号」をクリック)



○副議長(佐藤幸雄) 次に、佐々木薫議員に質問を許します。〔佐々木 薫議員 登壇〕(拍手)

◆佐々木薫 新潟クラブの佐々木薫です。以下、通告に従いまして、質問いたします。まず、青年海外協力隊についてですが、この組織はあくまでも純然たる国際貢献であり、それに伴う若者の心血注ぐ情熱と日本を背負った志です。青年海外協力隊創設に尽力され、協力隊の終生運営委員で、また社団法人協力隊を育てる会の副会長でもあられました、故人であります末次一郎先生創設の青年海外協力隊の前身でもあります日本健青会の綱領からも、そのことは明らかです。戦後の償いとか罪滅ぼしの一環とは全然違うものであります。また、レアメタルの確保やCO₂排出権問題など、多岐にわたる国際戦略も視野に入れた発展途上国とかかわりや、複雑な国際情勢からの国益にも付随してくるのが実情とも言えるのではないのでしょうか。そのような観点から、政府開発援助、ODAの実施機関である国際協力機構、JICAによる青年海外協力隊事業を改めて認識していただき、本市にとっては職員採用や人材育成にもこの組織を活用していただきたいと願い、まず最初に本市における青年海外協力隊支援の状況の確認になりますが、本市における現状及び現職参加の状況はどうなっているのか、お伺いをします。次に、職員採用時に何らかの優遇措置をとることができないものではないのでしょうか。本市においては、環日本海圏3億人の国際化に対応する人材として、国際関係を理解し体験した職員を確保すれば、文化面だけでなく企業誘致、貿易などの経済面での交流が活性化できますし、即戦力としての有能な人材確保にも寄与するのではないのでしょうか。そこで、例えば採用時優遇措置として、ある程度点数を付加するなどはいかがでしょうか。また、京都市では、職員採用で一般事務上級に青年海外協力隊経験枠を設けています。本市が青年海外協力隊を重要視している自治体だと知れば、高い志のある有能な若者が集まってくると思います。青年海外協力隊経験を何らかの形で採用時のポイントに組み入れてもよいのではないのでしょうか。2つ目の質問として、新卒者職員採用に關しての基準としてはどうでしょうか、お伺いをいたします。そして、国際貢献のあり方は、資金面だけではなく、言わずと知れた人的貢献が重要視されているのは共通の認識であると考えます。本市においては、国際外交ではなく一自治体として民際外交に徹していただきたいと願っています。それには、市の職員及び就業者の現職参加の推進です。JICAにはさまざまな貢献をさせていただき、所属先人件費補てん制度などもございます。そういったものをぜひ取り入れていただきたいと思います。そして、青年海外協力隊は、昭和40年の発足以来、平成20年9月現在まで3万2,097名の若者が、世界86カ国で活躍してまいりました。そういった全国的推移から、もっと積極的に、本市はもとより民間企業が草の根レベルでの人的国際貢献を高く評価し、国の助成制度をも見直し、本市への実益を再考いただき、積極的に参画していただきたい。そこで、3つ目の質問です。人的国際貢献としての評価とすべきではないか、お伺いをいたします。そして、それら若者が、帰国後は新潟のために活躍してもらいたいと希求する次第でございますが、昨今の経済情勢もあり、現実には厳しい状況です。前職より能力を発揮できない職場に再就職するのがほとんどで、就労意識をそぐこともあつたりします。このような状況は、本市にとってマンパワーの損失で、非常にもったいないことです。本人にしても、後顧の憂いがあるのは積極的に外へは羽ばたいていけません。地方自治体や企業のバックアップが必要です。そのことが間接的に国際貢献としてつながっていくのではないのでしょうか。最後に、派遣帰国後の就職の支援をすべきと思うが、いかがでしょうか、お伺いをいたします。次に、新潟空港活性化についてです。(以下、省略)

○副議長(佐藤幸雄) 篠田市長。〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長(篠田昭) 佐々木議員の御質問のうち、私からは青年海外協力隊と新潟空港活性化についてお答えし、その他につきましては担当部長が答弁いたします。初めに、青年海外協力隊については、関連がありますので一括でお答えいたします。独立行政法人国際協力機構、いわゆるJICAが派遣する青年海外協力隊の本市出身者の派遣人数は19人で、そのうち仕事をやめずに参加する現職参加者は2人となっております。青年海外協力隊員として技術を学んだ国際貢献により貴重な体験をした方々は、地域の重要な人材であり、帰国後その体験を多くの市民に伝えることで、国際理解の増進、新潟市の国際化に大きな貢献をしていただけるものと期待しております。昨年11月には、各界各層の方々が発起人となり、シニアの海外派遣も含めたJICAボランティア事業の地域への理解と支援の拡大を目指し、にいがた青年海外協力隊を育てる会が新潟に設立されました。派遣帰国後の就職支援につきましては、市としても、この育てる会の皆様やJICAとともに、企業への働きかけなど支援活動に協力してまいります。また、市職員の採用に当たっては、これまでも国際貢献活動やボランティア活動などで培われたコミュニケーション力やチャレンジ精神、適応力を選考において重視してまいりました。青年海外協力隊の活動経験を要件の一つとすることにつきましては、今後調査、研究を進めてまいります。次に、新潟空港の活性化につきまして、これも関連がありますので一括でお答えいたします。(以下、省略)

